

|| 企業調査レポート ||

## フリービット

3843 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 4 月 2 日 (月)

執筆：客員アナリスト

**角田秀夫**

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

## 業績動向

### 2018年4月期第3四半期は増収減益。 ヘルステック事業の先行投資が一段落し収益回復基調

#### 1. 2018年4月期第3四半期の業績概要

フリービット<3843>の2018年4月期第3四半期業績は、売上高が前年同期比6.2%増の28,854百万円、営業利益が同30.2%減の966百万円、経常利益が同51.9%減の516百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失が724百万円(前年同期は252百万円の利益)となり、増収減益となった。

売上高が前年同期比6.2%増と伸びたのは、ブロードバンド事業がマンションインターネットの導入増加により成長したこととアドテクノロジー事業においてアドテクノロジー関連サービスやアフィリエイトサービスの事業規模が拡大したことが主要因である。売上総利益が同16.4%増と伸びたのは、先行投資が事業として顕在化しつつあることを示す。販管費は(株)フリービット EPARK ヘルスケアの連結子会社化等に伴う人件費やその他費用の増加によって、同29.0%増と大きく増加。この結果、営業利益は同30.2%の減益となった。経常利益の減益は、営業利益の減益の影響が大きく、次いでトーンモバイル(株)の事業拡大に伴う持分法投資損失(上半期)が影響した。親会社株主に帰属する四半期純利益の減益は、経常利益の減益の影響が大きかった。

#### 2018年4月期第3四半期連結業績の概要

(単位:百万円)

	17/4期3Q		18/4期3Q		前年同期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	27,180	-	28,854	-	6.2%
売上原価	20,700	76.2%	21,314	73.9%	3.0%
売上総利益	6,479	23.8%	7,540	26.1%	16.4%
販管費	5,094	18.7%	6,573	22.8%	29.0%
営業利益	1,384	5.1%	966	3.3%	-30.2%
経常利益	1,073	3.9%	516	1.8%	-51.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	252	0.9%	-724	-	-

出所:決算短信よりフィスコ作成

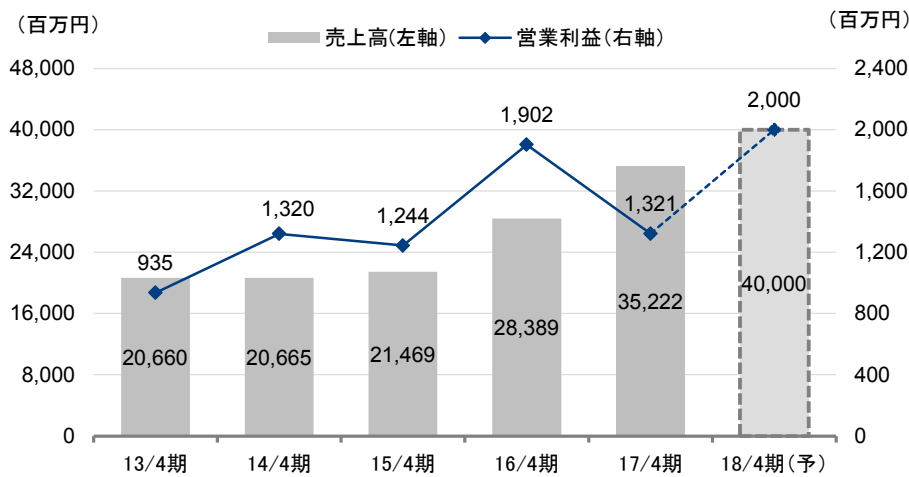
四半期ごとの営業利益では、第1四半期が244百万円、第2四半期が178百万円と低調だったのに対し、第3四半期は543百万円と盛り返した。主力のブロードバンド事業とアドテクノロジー事業でしっかり稼いだことに加え、主にヘルステック事業における販管費の増加が落ち着いたことも収益力向上につながった。

## 業績動向

## Key Points

- ・「Being The NET Frontier!」を理念に掲げ、インターネット・サービスにおける様々な原動力（エンジン）を提供。ヘルスケアや不動産などの生活産業の情報化事業に多角化
- ・2018年4月期通期は売上高400億円、営業利益20億円の予想に向けてほぼ計画通りの進捗
- ・2020年に売上高500億円、営業利益50億円を目指す。ヘルステック事業が投資フェーズから回収フェーズに転換へ

## 業績推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

## ■ 今後の見通し

### 2018年4月期通期は売上高40,000百万円、営業利益2,000百万円の予想に向けほぼ計画通りの進捗

2018年4月期通期の連結業績は、売上高で前期比13.6%増の40,000百万円、営業利益で同51.4%増の2,000百万円、経常利益で同135.3%増の1,900百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で100百万円と増収増益の期初予想を据え置いた。

売上高に関しては、アドテクノロジー事業及びブロードバンド事業が成長をけん引する。ヘルステック事業で前年下期に連結化した子会社の売上を通期で計上することも加わり、全社として前期比13.6%の成長を見込む。売上高の第3四半期進捗率は72.1%となっており、売上面では順調に推移していると判断できる。

フリービット | 2018年4月2日(月)  
3843 東証1部 | <http://freebit.com/ir/>

今後の見通し

営業利益に関しては、堅調なブロードバンド事業とともに、前期に一過性の債権未回収により減益となったアドテクノロジー事業が回復し、全社の増益をけん引する見込みだ。本来のポテンシャルでは2018年4月期営業利益で2,800百万円前後の収益力を持つ同社だが、ヘルステック事業及び不動産テック事業に先行投資約800百万円を見越して、2,000百万円の予想である。営業利益の第3四半期進捗率が48.3%。ブロードバンド事業とアドテクノロジー事業が堅調ななか、ヘルステック事業で収益改善が進むため、今後急激に利益が回復し、営業利益予想2,000百万円に迫ることが見込める。また、(株)ドリーム・トレイン・インターネット取得時ののれんの大半が第2四半期で終了したため、約170百万円のものれん償却額が減少し利益の増加に寄与する。

なお、経常利益に関しては、上期に持分法適用関連会社のトーンモバイルへの投資損失が408百万円発生しており、通期業績への影響が残る可能性がある。

### 2018年4月期通期 業績予想

(単位：百万円)

	17/4期		18/4期			
	実績	売上比	予想	売上比	前期比	3Q進捗率
売上高	35,222	-	40,000	-	13.6%	72.1%
営業利益	1,321	3.8%	2,000	5.0%	51.4%	48.3%
経常利益	807	2.3%	1,900	4.8%	135.3%	27.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	-150	-0.4%	100	0.3%	-	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

## ■ 中長期の成長戦略

### 2020年に売上高500億円、営業利益50億円を目指す。 ヘルステック事業が投資フェーズから回収フェーズに転換へ

同社は2016年6月に4ヶ年の中期事業方針「SiLK VISION 2020」を発表し、2020年4月期に売上高500億円、営業利益50億円を目指している。グループ基本方針では生活革命とモバイル革命の2つを成長領域と定義する。

生活革命では、ヘルステック事業と不動産テック事業において先行投資が行われてきた。2018年4月期第3四半期会計期間においては、ヘルステック事業でフリービット EPARK ヘルスケアが黒字化を達成し、セグメント全体としても成長力を維持したままで来期の黒字化が見通せるまでになった。不動産テック事業においては、イオンハウジングのブランドで不動産仲介業を行う(株)フォーメンバーズを連結子会社化し、現在収益改善及び店舗網の拡大、IT活用の新サービス投入による優位性確立に取り組んでおり、2019年4月期中の単月黒字を見込んでいる。2018年4月には、複数のベンチャー企業との連携により、遠隔操作スマートロック(スマートキー)を併せた住宅向けIoTプラットフォームサービスの提供を開始した。

中長期の成長戦略

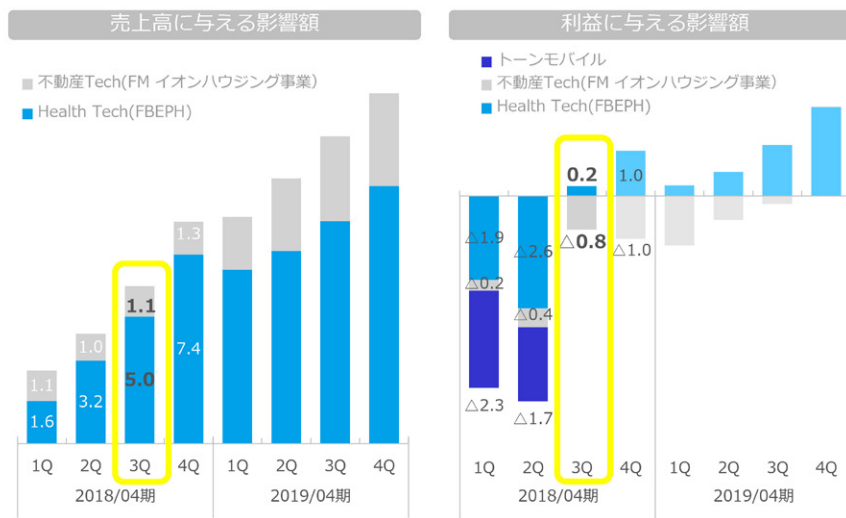
モバイル事業においては、持分法適用関連会社トーンモバイルの契約者数拡大のためのサービス拡充・広告宣伝・割引プラン実施を行うために、2018年4月期上期に約400百万円拠出されたが、その後追加投資の予定はなく収支均衡の方向だ。

いずれの投資案件（注力事業）も、多少のフェーズのずれはあるものの、成果の顕在化が近い。特にヘルステック事業は、投資フェーズから回収フェーズへの転換を達成しつつある。

注力事業への投資実績と今後の見通し

FBEPHについては黒字転換を達成。来期に向けて増収増益基調となる見通し

(単位：億円)



出所：決算説明資料より掲載

## 株主還元策

### 2018年4月期末も利益の多寡にかかわらず7円配当を予想

同社は株主還元策として配当を実施している。配当の基本方針としては、内部留保の充実や事業拡大のための投資とともに株主への継続的な利益還元を重視する方針である。2017年4月期は当期純利益で損失決算だったが1株当たり配当金7円/年を継続。2018年4月期も利益の多寡にかかわらず1株当たり配当金7円/年、配当性向は155.2%を見込む。

#### 重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ